

第 60 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 28 年 8 月 29 日(月) 午前 10 : 30 ~ 12 : 00
2. 開催場所 COM 倶楽部会議室 (箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階)
3. 委員の出席 委員総数 7 名
- 出席委員 7 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、須貝昭子、稲井信也、桑田政美
中村保、高谷和彦、神垣美代香
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
小川 亮 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 タッキースペシャル 公開生放送「スタンダードキャンドルナイト」
2) 審議
3) その他番組に対する意見 (「箕面市長・市議会議員選挙開票速報」)
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

毎年約 7,000 人が訪れる箕面市のビッグイベントの一つ「みのおキャンドルロード」の開催にあわせて、会場の途中となる箕面森のふれあい広場から公開生放送を実施。同広場運営委員会の協力で実現しました。同広場の活動目的である自然情報を盛り込みながら、幻想的なキャンドルの灯りにマッチしたフルートでのディズニーメドレーの演奏を中心に、広場の所有者である箕面温泉スパガーデンにもご協賛いただき、箕面市民にお得な割引情報などをお伝えしました。

今年度、箕面森のふれあい広場運営委員会の協力で、同広場で年 4 回、公開放送を予定しています。今回を含めて、いずれも、箕面公園への来園が多く見込まれる新緑期、紅葉期と、来年 3 月のイベント開催時で、来園者に自然情報を発信していくことが目的の一つです。今回は、自然にまつわる 3 名のゲストと、フルートのミニコンサートで構成。コンサートは、キャンドルの雰囲気にあわせて、やさしい音色の楽器をブッキングしました。放送ブース横では、箕面の特産品として弊社が開発した、ゆず胡椒味とメイプル味のポップコーンを 100 円で販売し、売り上げの一部をみのお山麓保全ファンドに寄付しました。

特にミニコンサート時には、来園者が足を止め、大勢が手拍子を送っていただきました。通行時に、口々に「タッキーが何かやってる」「箕面にラジオ局があるんだって」など、反応してくださり、タッキーを日頃ご存じないかたにもアピールできたのではと考えています。今年度あと 2 回の放送も、工夫を凝らして、立ち止まって聴いていただけるような内容にしていきたいと考えています。

(2) 審 議

A委員：パーソナリティの黄堂さんが浴衣で出演していたのもよかったし、心地よく番組を誘導していた。ゲストの話しのときに音量がガンと下がったように感じたが…。フルートの音色は夜の滝道にあっていた。演奏が始まったら多くの観光客が聴いていて良かった。観光客をもう少し巻き込んだトークや企画があれば、なおこの場でやる意味が出てくる。また、これだけの観客があるのだから、どのくらいの人がタッキーを聴いているかとか、マーケティングをするチャンス。タッキーそのものの広報を、せっかくあの場でやるのならすれば良かった。

B委員：上手に雰囲気を作っていた。時折、観光客に声をかけたりしていたのは臨場感があった。観光客の声がもっとあるとさらに深みが出たのでは。また、自然についての情報発信もとても良かった。確かにマーケティングの場になるというのはあると思う。

C委員：ゲストの話は知らないことだったのでためになった。フルート演奏の選曲はキャンドルナイトの場でやるには残念で、ラジオだけでは夜なのか昼なのか分からない選曲だった。もっとローソクの灯りなどにちなんだ曲がたくさんあるので、そういう曲を選び、さらに弦楽器が入っていたらなお良かった。現地ではそれなりの雰囲気が味わえるのだろうが、ラジオだけで聞いているとフルートだけではさみしいなと感じた。ラジオだけを聴いている人にも考慮して作ってほしいと感じた。黄堂さんの初めのトークは、その場のようすがイメージできてとても良かったが、だんだん時間が進むにつれてどこでやっているのか伝わりにくくなっていた。

委員長：選曲などはどう考えてしたか

事務局：多くのかたに耳なじみの曲を演奏してもらった。ディズニーメドレー、なかでもローソクをイメージした曲も入れてもらったが、ご意見を今後の参考にしたい。また、あの場は近隣住民もおられ、音的にもう一つ楽器を入れることが難しかった。

D委員：今回の公開放送、箕面まつり、選挙と、立て続けに頑張っていた。エンディングでパーソナリティが時刻を言ったあと「キャンドルが1つ2つ消えていくのがさみしい」「思い出多き夏をお楽しみください」という終わり方が印象に残った。キャンドルロードの会場だったが、単なる公開生放送をしている感じしかなかった。観光客に声をかけたりしていたら、ラジオを聴いている人にも会場の雰囲気をもっと伝わったと思う。

E委員：放送を聴く限りでは観客とのコミュニティがとれていなかった。情報も一方的に流して向こうからは何も返ってきていない感じがした。せっかくの機会だから、タッキーを売り込んでいくことを考えてほしかった。6,800人の来場があったという雰囲気がしなかった。音量が上がったり下がったりしていた。キャンドルロードについても伝えていくのであれば、伝える方法を考えなければ。「幻想的」とか「きれい」だと言われても、それだけの想像力が働かない。もう少し違った伝達方法とか、テクニックがほしかった。山の活動をしているゲストのかたは実際はもっとおもしろいかた。その辺りを理解してインタビューできればもっと違った。

F委員：会場の人を楽しんでいるか、ラジオで聞いている人を楽しんでいるか。他の公開放送や特番を含めて、タッキーの弱さがもろに出ている。タッキーの弱さとは何かというと「演出力」がないこと。これはもったいない。スタジオでやっているのとスペシャルの違いが、ラジオで聞いていると全然伝わってこない。もっと言うと公開放送や特別番組は、ハプニング、作られたハプニングでも良いので、たとえば、滝道の良さ、昼と夜の違いなどを、滝から下ってきた人に聞くとか、演出されたハプニングでいえば、例えば、箕面のビッグタレントが下りて来て「〇〇さん！」と呼びとめて「滝に行ってたんですか、どうでした?!」という演出をあえて入れ込んで、会場から歓声をあげさせるとか、そういうおもしろさを考えて交渉する。労力も費用もかかるので、難しいのかもしれないが、予定調和ではおもしろくない。スタジオから外へ出ただけではもったいない。キャンドルナイトやライトアップにも行ってみたいなという気を起こさせることも入れていかななくては。歩いている人から、またはゲストから引き出す工夫も必要。大滝前からの中継を入れるなども一つ。

委員長：「演出力」がないというのは、なるほど。確かに今まで無難にやっていた部分があるかもしれない。開局から、頑張っている程度のレベルに達して、そのレベルを維持してやってきているが、そのレベルを超える、おもしろみをつけていくのは、これからの課題。演出力、意外性も含めて、培ってきた基礎があるので、プラスアルファをつけてやっていく時期。

A委員：ラジオを聞いている範囲では、観客の10分の1の拍手も聞こえない。人が50人いたら50人の拍手が聴きたい。そういう意味での演出も含めて臨場感がほしい。

事務局：「演出力」は仰るとおり課題。スタッフの人数を増やすなど予算的なことも考え、ご意見を参考に、できることは実行していく。

委員長：ラジオで聴いているひとは、しゃべり手がどんな人なのかとイメージを膨らませながら聴いている。番組表で顔を見て、ああこんなかたがしゃべっているのかとさらに興味が湧く。興味をひかせるのも演出力に関係してくるのではないか

A委員：ラジオで聴いている限り、浴衣がどうか分からない。だから、事前に、誰かに浴衣のことを突っ込んでもらうようにしておく、それも演出。

委員長：人がたくさん集まるイベントで公開放送する機会は、大いにタッキーの名前を知らせる宣伝の場に活用してほしい。続いて、箕面市長選挙・市議会議員選挙の投・開票速報特番についてご意見頂戴したい。事務局から、番組説明を

事務局：選挙当日の22時から、スカイアリーナで1回目の開票の発表に合わせ、21:55から特別番組を組んだ。スタジオでのアナウンス、スカイアリーナの開票会場からのレポーター、市長当選の喜びの声を中継するレポーターの体制で、誰よりも、どこよりも早く、市長・市議会議員の得票数を放送した。開票速報は30分毎にスカイアリーナと結んで発表した。その間は、数字を繰り返しお伝えするなどしてつないだ。市長の当選インタビューは電波の状況か、何度も切れてしまいお聞き苦しい状況になってしまった。また、

インターネットでも特設サイトを開設し、得票数を随時アップした。

A委員：関心のある人たちには興味深く聞いた。市長のインタビューで途切れたのは問題じゃないか。市民の関心が低いなかで、どのように演出して聞かせる番組にするのかは難しい。淡々と伝えるのはやむを得ないかと思う。

B委員：地方の市長選・市議選で、テレビで速報が分かるわけでないので、こういふときに地域のラジオで聴けるのは強みだと感じた。一般の市民の感覚でいうと、最終的に誰に決まったかさえ分かればいい人が大半なので、その中で確定までどうつないで聞かせていくのかは、やはり淡々とお伝えするしかないのかなと思う。あとは開票だけでなく、選挙の前後で投票をどう啓発していく放送をするかが大切。

C議員：スマホのアプリで聴いたが、番組冒頭はなかなかネットが繋がらなくて、ようやくつながったらアナウンサーがカミカミの状況だった。その後、市議会議員の最初の得票数を2～3回繰り返したが、繰り返す必要があるのか疑問。2回目の発表は10時30分からあるということで、それまでジャズが流れ、眠いと感じた。このつながりをなんとかならないか。つながりのときに目がパチッとあくように、期日前投票のときの話題や若いかたがどれくらい投票したかななどの情報があっても良かった。間にかける音楽も考えたら。市長のインタビューが何度も切れたのは気になったが、レポートは会場の情景描写が分かりやすかった。普通のリスナーなら結果は明日の新聞で見たらいいかと思ってしまうと思う。

F委員：最初の発表が10時にあって、10時5分にはもう音楽が流れて、次の発表は30分後と言われ、このジャズをずっと聞かないといけないのかと、この段階で「もういい」と思った。緊張感も全然ないし、明日新聞で分かるし、スペシャルでやる意味があるのかと思った、通常の番組の中で発表のときだけカットインで入れたらいいんじゃないか。市長のコメントなども次の日の番組で流せばいいし、局自体がどう評価しているのかが聞きたい。一般の人は聞かないと思う。

事務局：基本的に考え方としては、選挙に興味のあるかた、選挙の関係者のかたに

向けて放送している。得票数が見られるホームページへのアクセスが発表時にはぐんとあがるので、ホームページだけでもいいが、箕面の放送局として第一声を伝えようということでやっている。早く結果が知りたいかたのために放送しているということが前提。間の持ち方を考えなければならぬかもしれないが、衆議院選などのようにコメンテーターをよんできて、というまでもないし…。考えるとしたら、先ほどC委員が仰ったように、特番としてではなく、通常番組に入れられるようにするなど、どちらをとるかというところ。

A委員：選挙はなんだかんだいって4年に一度のビッグイベント。今後スポンサーをつけるなどもありではないか。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 28 年 8 月 29 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会